

氣候

日露戰役  
の影響

此の地は舊と吐爾扈特族の牧場たりしが、土地廣濶、西北直に露領に連り、北陞緊要の地なるを以て、乾隆二十年(千七百五十年)清國の版圖に屬してより、東方二十二里、額爾齊斯河の右岸に一城を築き、人民の移住に勉めしが、後、更に當地を相して是に移り、名づけて塔爾巴哈臺と云へり。土地豐饒、平地は河水暢流して耕耘に宜く、山野は禽獸多く棲みて獵狩すべし。惟地僻隅に在るが故に、哈薩克の游牧に任せ、土着農を業とする者甚だ少なし。氣候は冬夏の二季と云ふを得べく、春秋なきに非ざるも甚だ短し。夏季は毒蛇、白蠅夥しく、往々人馬を害し、冬季は祁寒行人を絶つに至る。塔爾巴哈臺は新疆より露都に到る正路にして、此地より馬車にてセミパラチェンスクに至り、其れより汽船にて額爾齊斯河を下航し、オムスクに着し、鐵路直に露都に至るべし。

予は日戰役が、斯る偏僻の地に迄、如何なる影響を與へしかに就て、一言せざるを得ず。實に己れの歳を知らず、路を歩みて遠近を知らざる哈薩克固より世界の何者たるを知らざる彼游牧民も、獨り日露戰爭を知らざる者一人もなかりし一事は、實に意外とする所なり。尙ほ更に意外なりしは、露國人の感情とす。予惟ふ、露國